

## 第1回「北国の省エネ・新エネ大賞」受賞者

### 省エネルギー (4件)

【開発・製造部門】 (1件)

**エコモット株式会社** (札幌市)

#### <ロードヒーティング遠隔監視制御サービスによる燃料消費量削減>

監視カメラと携帯電話網を利用して融雪状況を確認し、IT技術を用いて効率的な運転を行うロードヒーティング遠隔監視制御装置を開発・製造し、併せて運転代行サービスを提供している。当該システムは、従来の降雪センサーを利用した自動運転と比べ、燃料消費量を大幅に削減するものであり、積雪対策に伴うエネルギー消費の大きい北海道にとって、省エネ対策上、有効な技術である。

【有効利用部門】 (2件)

**株式会社阿寒グランドホテル** (釧路市)

#### <温泉熱を利用したゼロカーボンプロジェクト事業>

高温の温泉熱を段階的に「給湯」、「吸気加温」、「浴槽の保温」に利用する熱交換システムと、かけ流しによる廃湯熱を回収し冷暖房に利用するヒートポンプシステムの導入により、温泉熱の総合的な有効利用を図り、重油使用量、CO2排出量の削減に取り組んだ。「温泉熱及び温泉廃熱のエネルギー利用」は国内クレジット認証制度によるCO2排出削減の新方法論として認められ、温泉資源の活用による模範的な取り組みである。

**セイコーエプソン株式会社千歳事業所** (千歳市)

#### <電子デバイス製造工場における装置用力の供給仕様の最適化>

製造工場において、「クリーンルームでの生産活動に必要な、冷却水などの用力の供給仕様の変更」、「工場の基礎設備の運転条件の見直し」といった省エネ活動に、ファシリティ部門と生産部門が一体となって取り組んだ。その結果、製品品質に影響を及ぼさない最適値を見つけ出し、費用をかけずに数多くの運用改善を積み重ねることで、CO2排出量を約10%削減したことは他の模範となる取り組みある。

【普及拡大部門】 (1件)

**日本フクソーガラス株式会社** (恵庭市)

#### <複層ガラスで、北海道の住宅の省エネ・省CO2を推進>

「エコ」や「省エネ」という言葉が一般的になる遥か前、昭和47年の創業時から複層ガラスの断熱効果による住宅の冷暖房負荷軽減に着目し、「北海道の住宅の窓へ複層ガラス100%採用」を事業コンセプトに、複層ガラスの普及拡大に努めてきた。また、平成19年から20年にかけて夕張医療センターにおいて窓の複層ガラス化による省エネ効果のデータ実測、解析、公表を行うなど、他に先駆けた取り組みを実施している。

## **新エネルギー** (3件)

【有効利用部門】 (1件)

**赤平オーキッド株式会社** (赤平市)

### ＜胡蝶蘭の通年栽培における地中熱ヒートポンプの導入＞

極寒の地赤平市で胡蝶蘭の通年栽培に地中熱ヒートポンプを導入し、既存の灯油温水ボイラーに比べ、CO2排出量を607t/年(67%)削減した。地中熱ヒートポンプを農業分野に導入した先進的な取組であり、新しい分野での地中熱活用による温室効果ガス削減の取組として新エネルギーの利用拡大に貢献した。

【啓発普及部門(組織)】 (1件)

**特定非営利活動法人ひまわりの種の会** (札幌市)

### ＜大型イベントの自然エネルギー化を進める「太陽と風のエコイルミネーション」＞

平成13年から道内の大型イベント「さっぽろホワイトイルミネーション」のメイン会場(大通り公園西3丁目)に太陽光と風力のハイブリッド型発電システムを導入した取り組みを継続して行い、さらに、平成20年からグリーン電力証書も取り入れ、当該会場を100%自然エネルギー活用ゾーンとした「太陽と風のエコイルミネーション」を展開し、市民・観光客に広くPR活動を行うなど、新エネルギーの普及・啓発に貢献してきた。

【啓発普及部門(個人)】 (1件)

**森 利男** (苫前町)

### ＜風力発電の普及～未来へつなげ「風」への想い～＞

風を活用した「まちおこし」として風力発電に着目し、町営風力発電所の建設に向け、風況調査や各種法規制に関する調整など様々な活動を精力的に展開し、風力発電所導入後もこれらの経験を活かし、風力発電推進市町村全国協議会の会長として、風力発電導入推進の中心的な役割を果たしているほか、大学等での講演活動、マスコミ等を通じたPR活動を継続するなど、先駆者として風力発電普及に向け貢献している。